



# 2023年3月期 中間決算説明会

---

株式会社J-MAX

東証スタンダード・名証メイン コード：3422



2022年7月1日で創業70周年の節目を迎え、今後の新たなグローバルでの成長ステージへの移行を見据え、当社のブランド力を強化することを目的として商号を変更いたしました。



株式会社

丸順



|                     |                                            |
|---------------------|--------------------------------------------|
| ・JAPAN              | <u>日本のものづくり技術</u> を世界で役立てたい                |
| ・JOYOUS(ジョイアス)      | 従業員・お客様・地域社会にとって <u>もっと楽しく、喜びに満ちたものづくり</u> |
| ・JUDICIOUS(ジュディシャス) | チャレンジの中にも <u>思慮深さがあるものづくり</u>              |
| ・JUT(ジャット)          | 飛び抜けた発想で <u>世界中に広がるものづくり</u>               |
| ・MAX                | 新たな目標を胸に、 <u>ものづくりの価値を最大化</u>              |

# 本日の報告事項

- 1、2023年3月期中間決算及び  
2023年3月期業績予想
- 2、成長へ向けた取り組みについて
- 3、サステナビリティの取り組みについて

# 本日の報告事項

**1、2023年3月期中間決算及び  
2023年3月期業績予想**

2、成長へ向けた取り組みについて

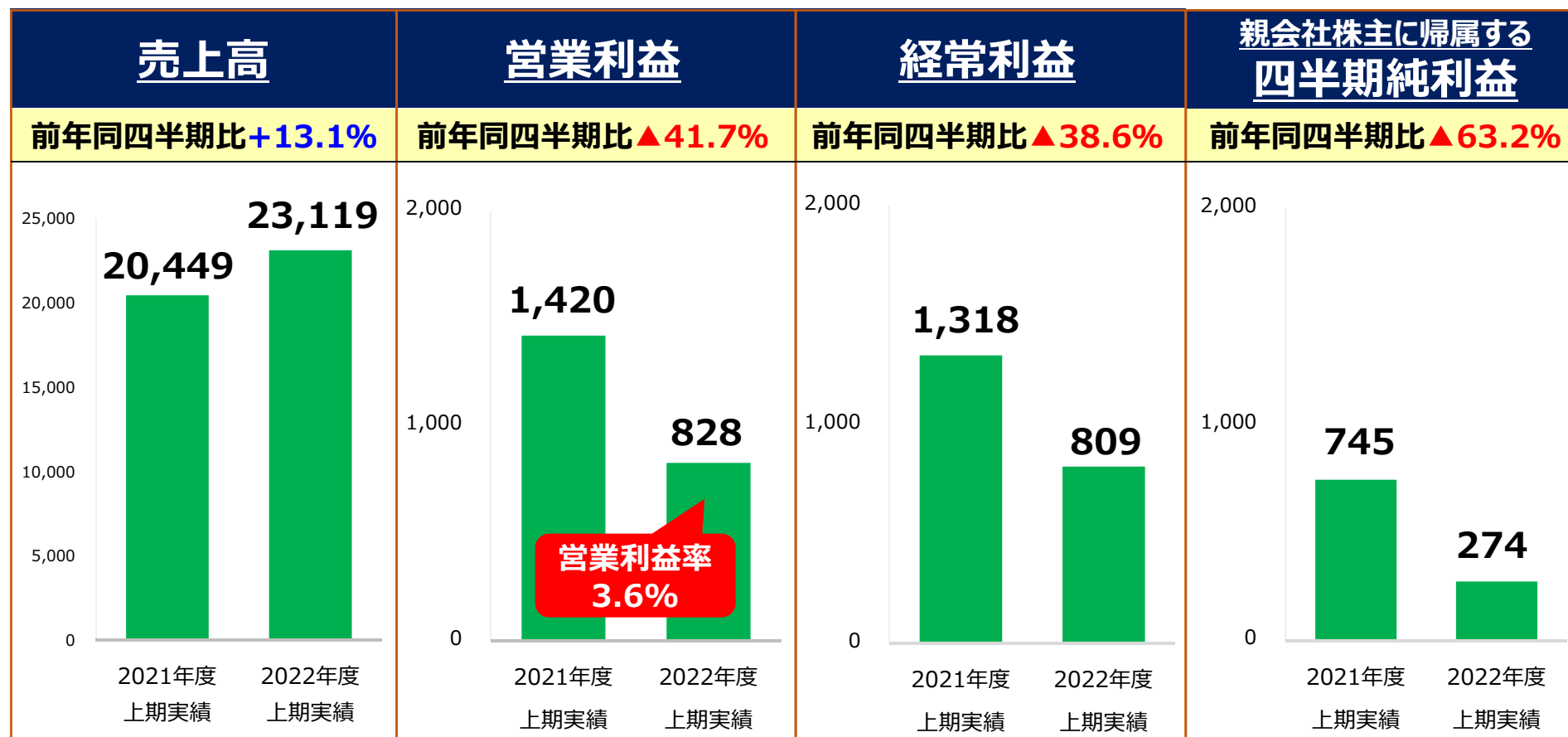
3、サステナビリティの取り組みについて

| 地域               |        | 2021年度<br>上期実績<br>(千台) | 2022年度<br>上期実績<br>(千台) | 前期比    | 状況                                |
|------------------|--------|------------------------|------------------------|--------|-----------------------------------|
| 日本               |        | 276                    | 286                    | 3.5%   | 鈴鹿製作所の生産回復により増加                   |
| 中国               | 広州     | 373                    | 355                    | -4.8%  | 上海ロックダウンの影響により減少                  |
|                  | 武漢     | 414                    | 351                    | -15.2% |                                   |
| タイ               | 四輪     | 55                     | 50                     | -9.1%  | 国内生産台数は減少するが、輸出向け部品、汎用エンジン生産台数は増加 |
|                  | 汎用エンジン | 544                    | 699                    | 28.4%  |                                   |
| 合計<br>(汎用エンジン除く) |        | 1,119                  | 1,043                  | -6.8%  |                                   |

※当社拠点主要客先 生産台数

中国における上海ロックダウンの影響及び  
前年度に引き続き半導体供給不足の影響を受け、全体では減少

(百万円)

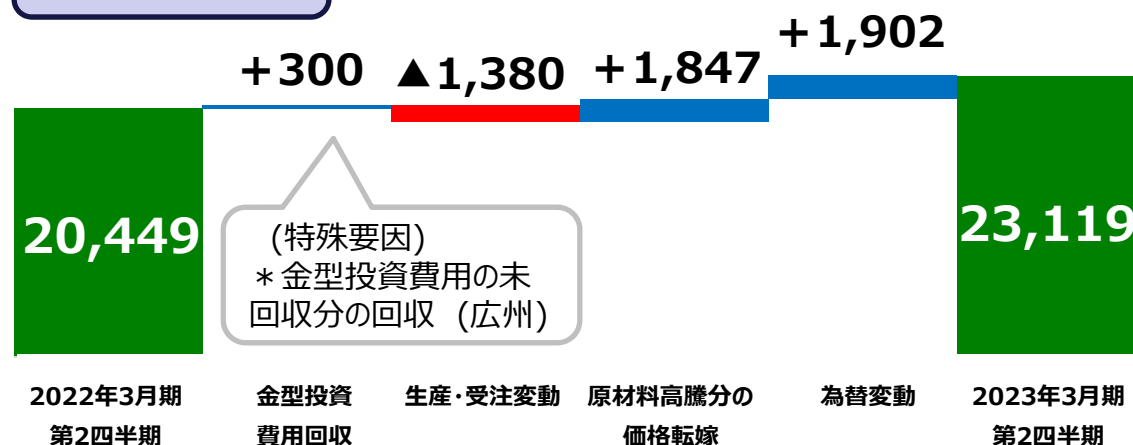


## 【為替レート】

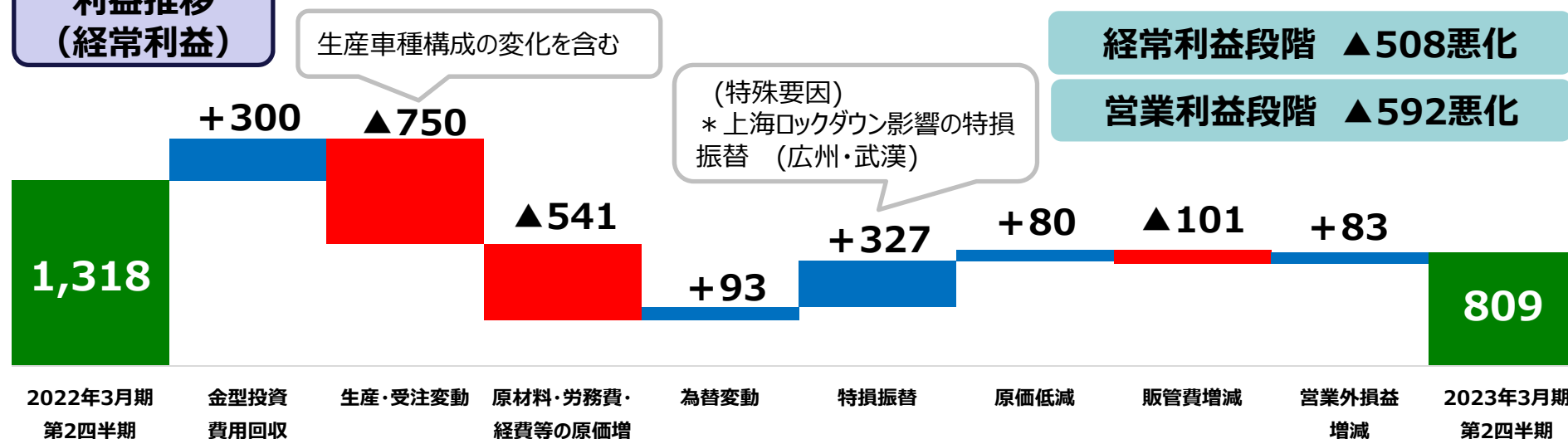
|       | 2021年度上期(円) | 2022年度上期(円) | 増減(円)  | 増減率 (%) |
|-------|-------------|-------------|--------|---------|
| 米ドル   | 110.18      | 133.46      | +23.28 | +21.1%  |
| タイバーツ | 3.49        | 3.63        | +0.14  | +4.0%   |
| 人民元   | 16.63       | 18.98       | +2.35  | +14.1%  |

(百万円)

## 売上推移



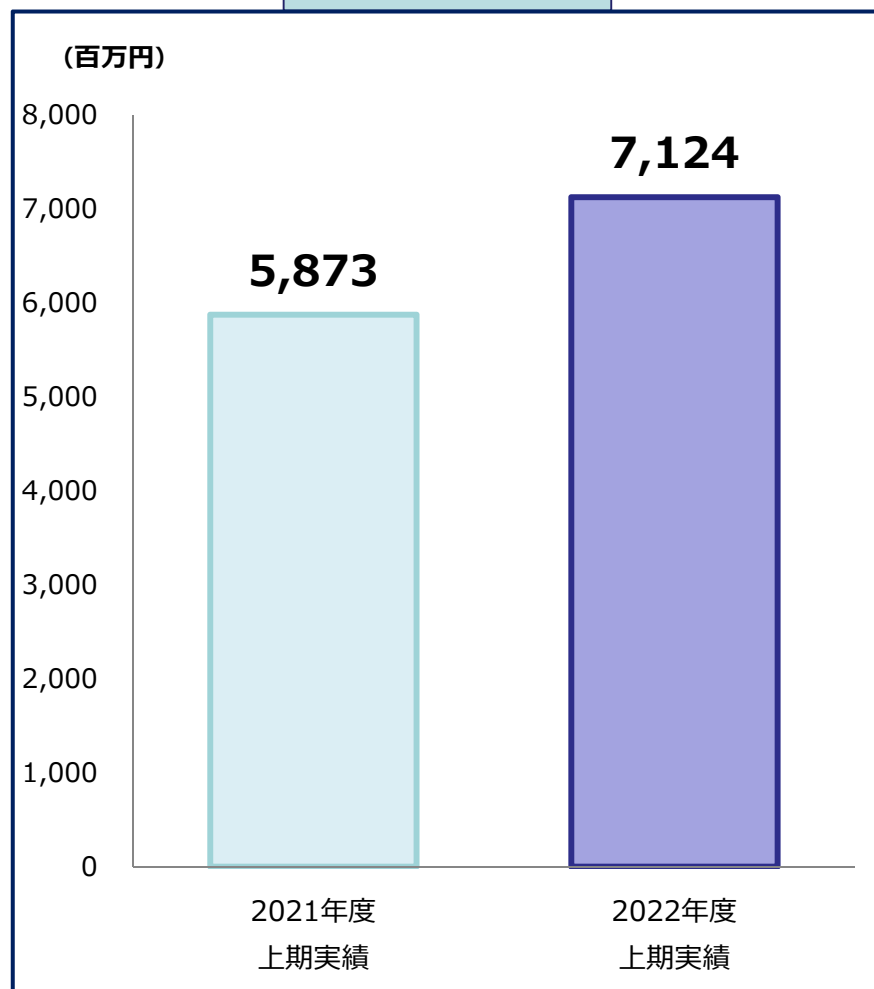
2,669増収

利益推移  
(経常利益)

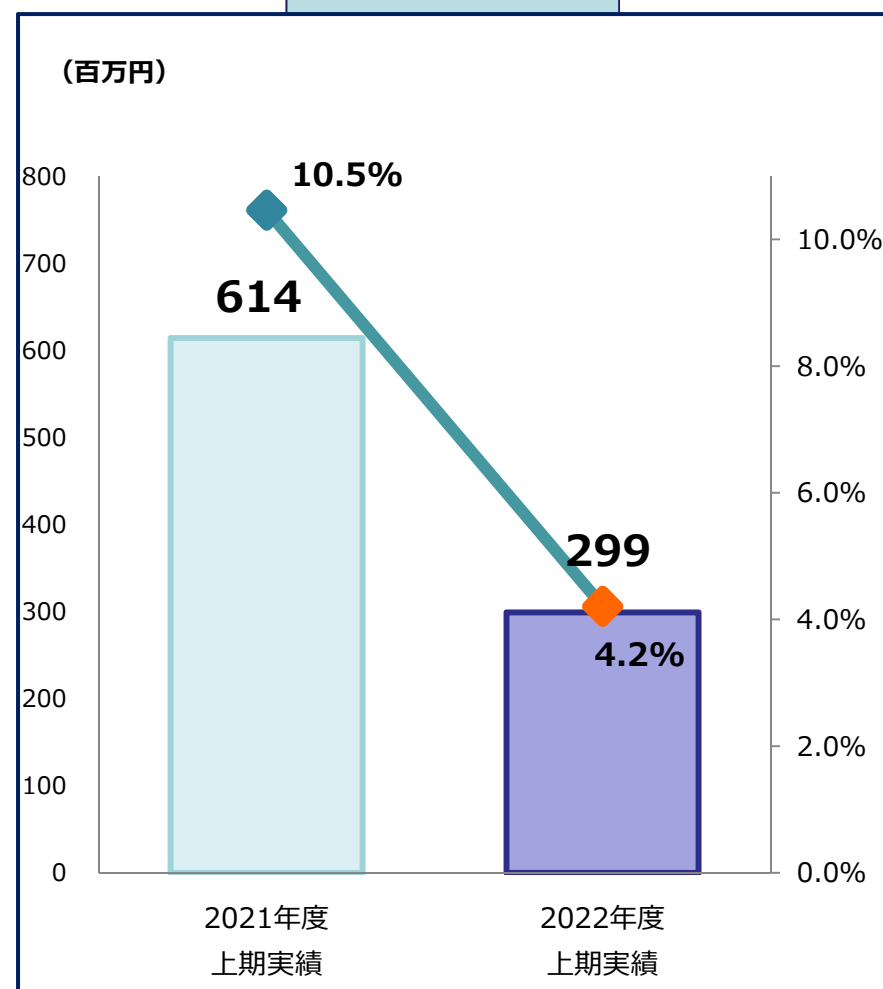
売上：原材料価格高騰分の価格転嫁、円安の為替変動により増収

利益：原材料・資源価格高騰及び生産変動に伴う労務費負担増加等の要因により減益

## 売上高

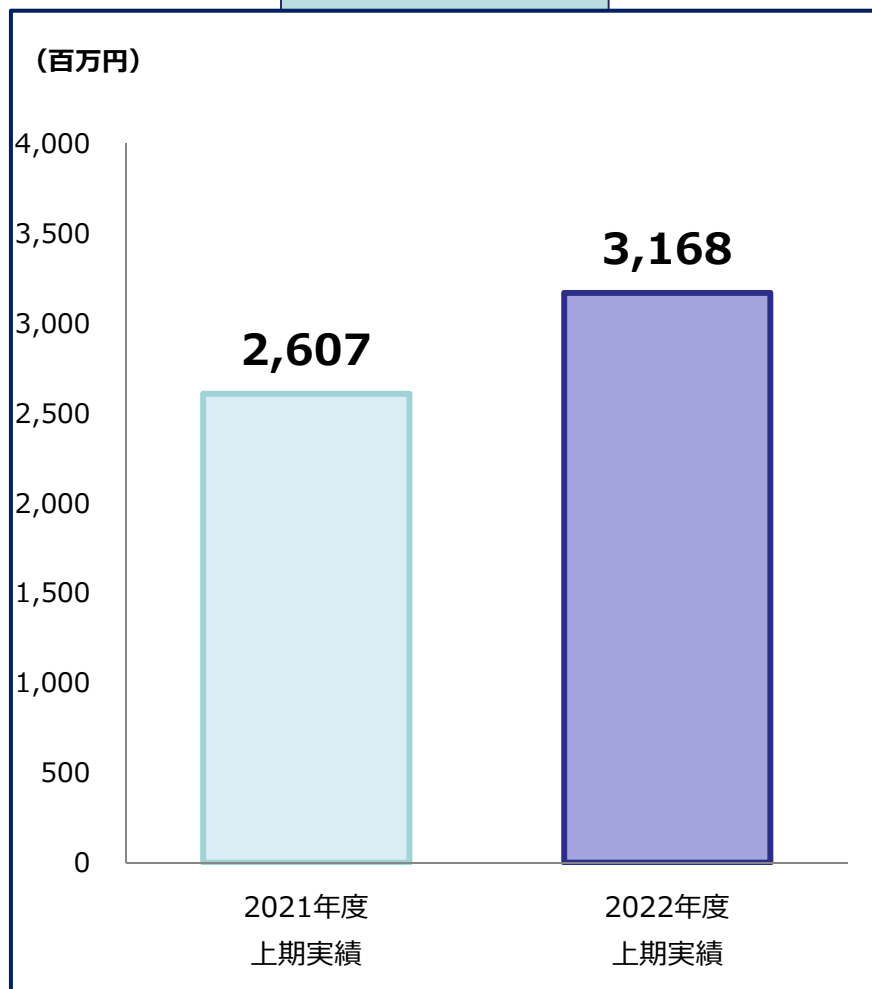


## 経常利益

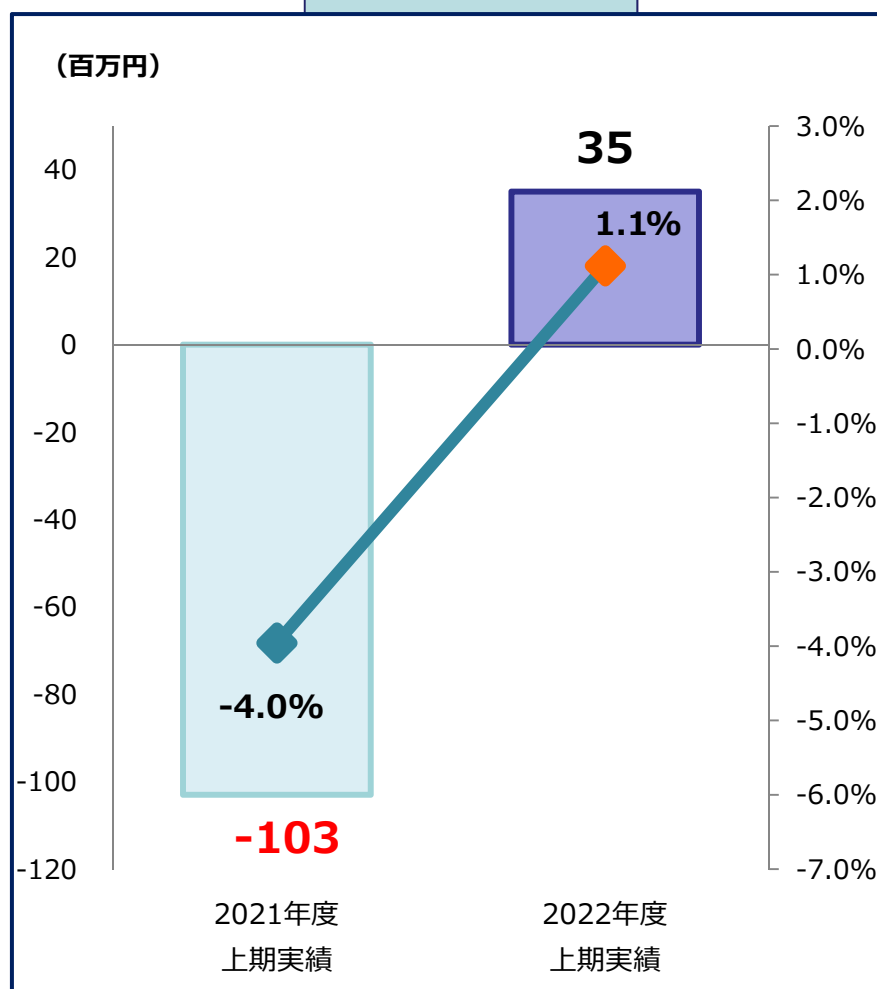


売上高は、客先の生産回復及び原材料価格の高騰等により増収。利益は、原材料価格の売価反映の時期ズレ、客先の生産変動に伴う労務費負担の増加、金型調達コストの増加等の影響により減益

## 売上高

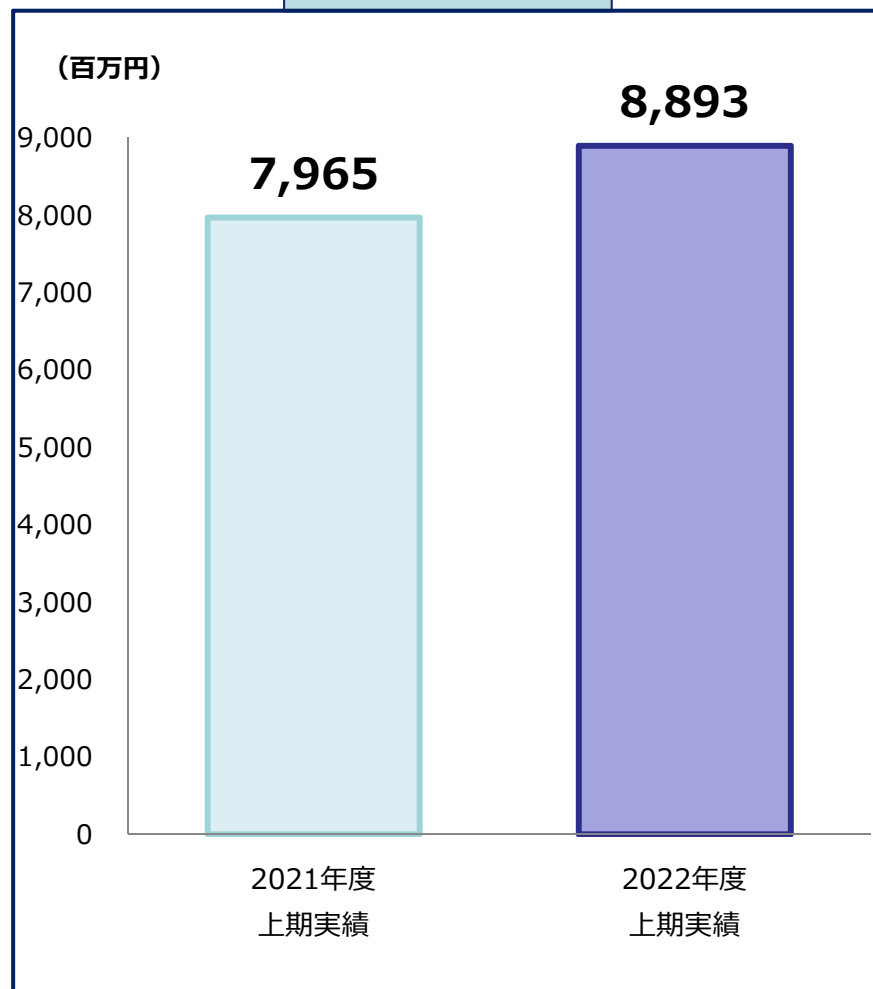


## 経常利益

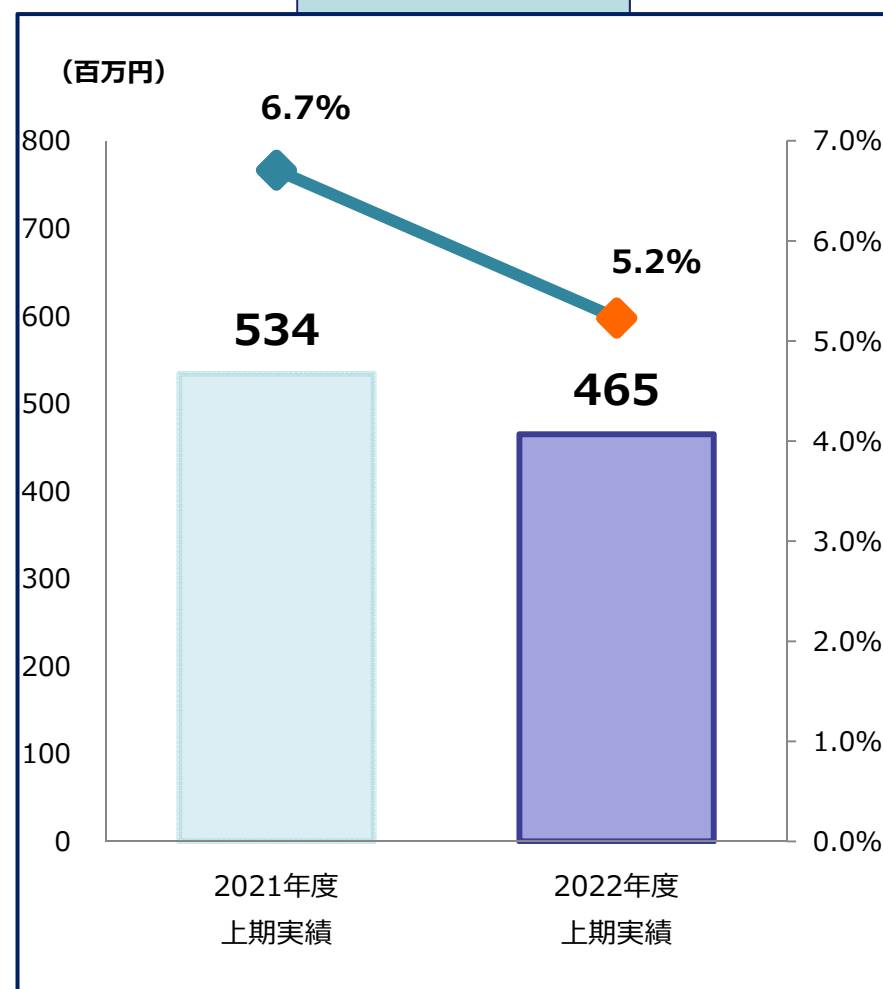


売上高は、客先の輸出及び汎用エンジン部品等の生産回復に加え、金型設備等の販売の増加により増収  
利益は、生産性改善に伴う要員適正化等の固定費削減の推進により増益

## 売上高

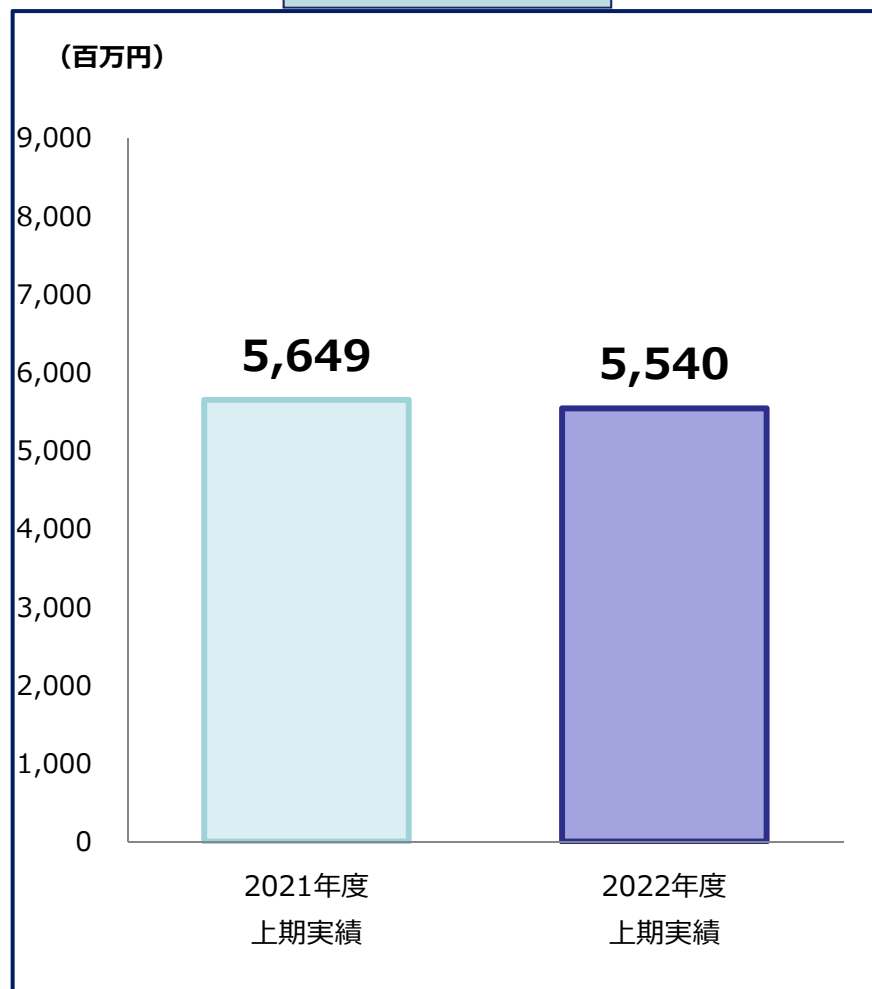


## 経常利益

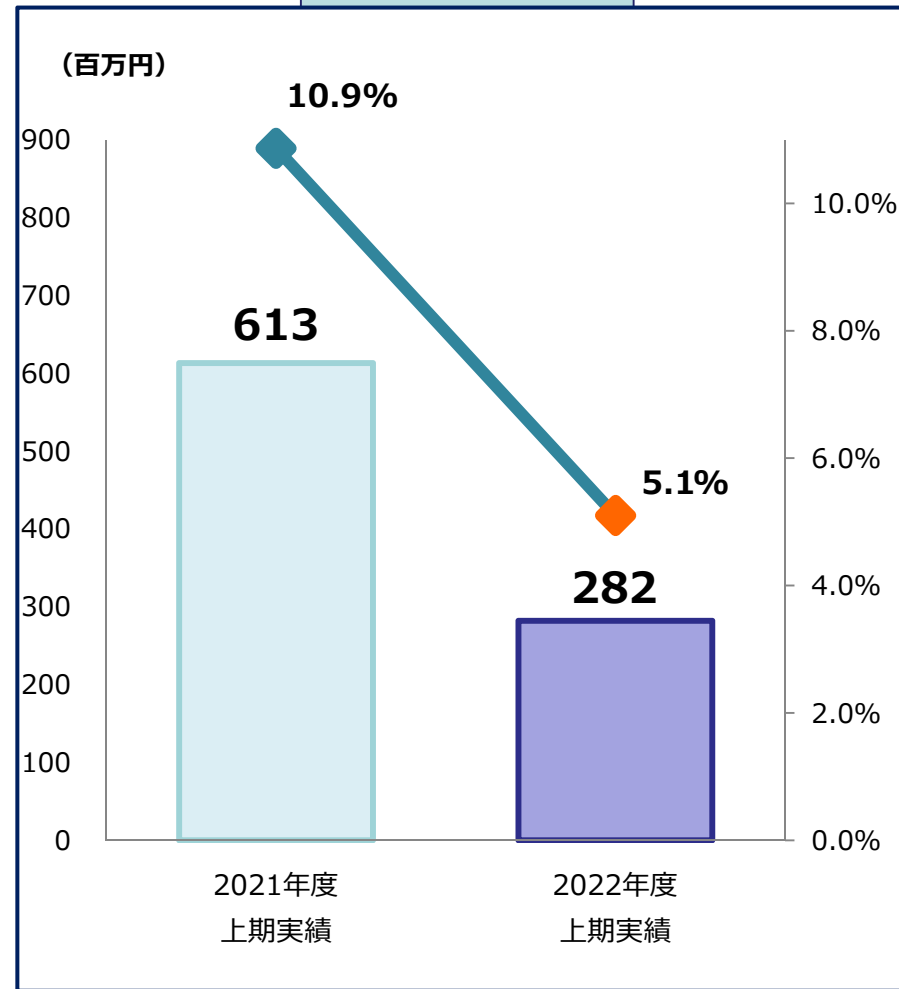


売上高は、継続的な半導体供給不足等による客先の減産等により、現地通貨ベースでは減少したものの、円安による為替変動の影響により邦貨ベースでは増収。利益は、原材料価格高騰及び上海ロックダウン(約1ヵ月)等による生産停止に伴う固定費負担の増加等の影響により減益

## 売上高

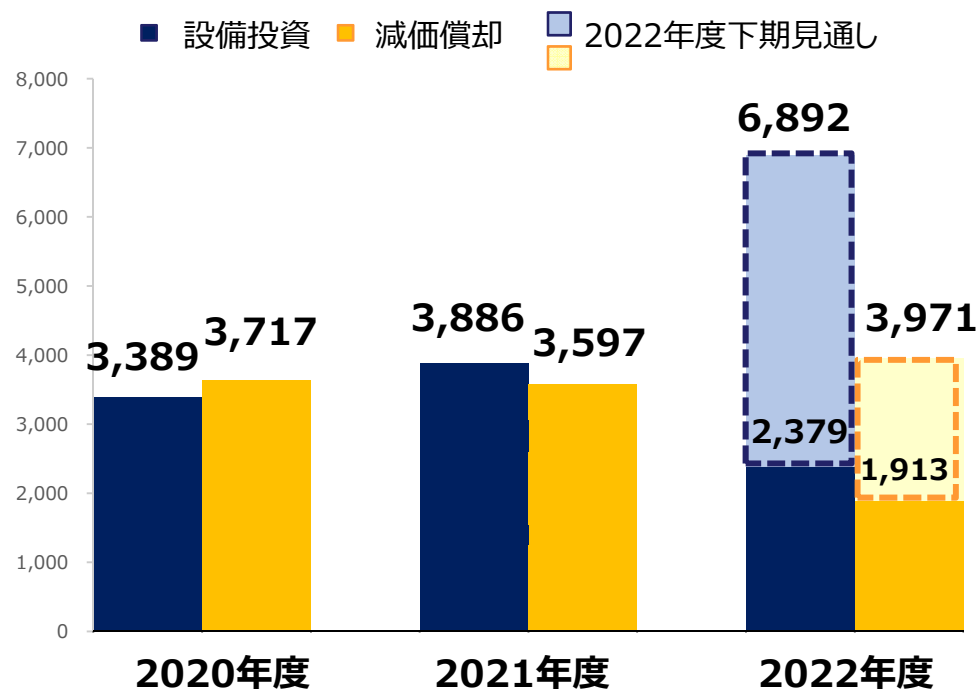


## 経常利益



売上高は、継続的な半導体供給不足等による客先の減産等により、現地通貨ベースでは減少したものの、円安による為替変動の影響により邦貨ベースでは前年同四半期と同水準。利益は、原材料価格高騰及び上海ロックダウン(約1ヵ月)等による生産停止に伴う固定費負担の増加等の影響により減益

## 設備投資と減価償却 (百万円)



## ◆設備投資

【単位：百万円】

|            | J-MAX | タイ  | 広州    | 武漢    | 連結<br>合計 |
|------------|-------|-----|-------|-------|----------|
| 2020年実績    | 917   | 502 | 1,559 | 409   | 3,389    |
| 2021年実績    | 815   | 443 | 1,340 | 1,287 | 3,886    |
| 2022年上期実績  | 737   | 194 | 882   | 564   | 2,379    |
| 2022年下期見通し | 1,587 | 398 | 1,153 | 1,376 | 4,513    |
| 2022年見通し   | 2,324 | 592 | 2,035 | 1,940 | 6,892    |

2022年度上期の主な投資

- ・岡山工場関連 (J-MAX)
- ・人荷用エレベーター (J-MAX)
- ・金型トライプレス (タイ)
- ・溶接設備能力拡大 (広州)
- ・新型車種金型 (J-MAX・タイ・広州・武漢)

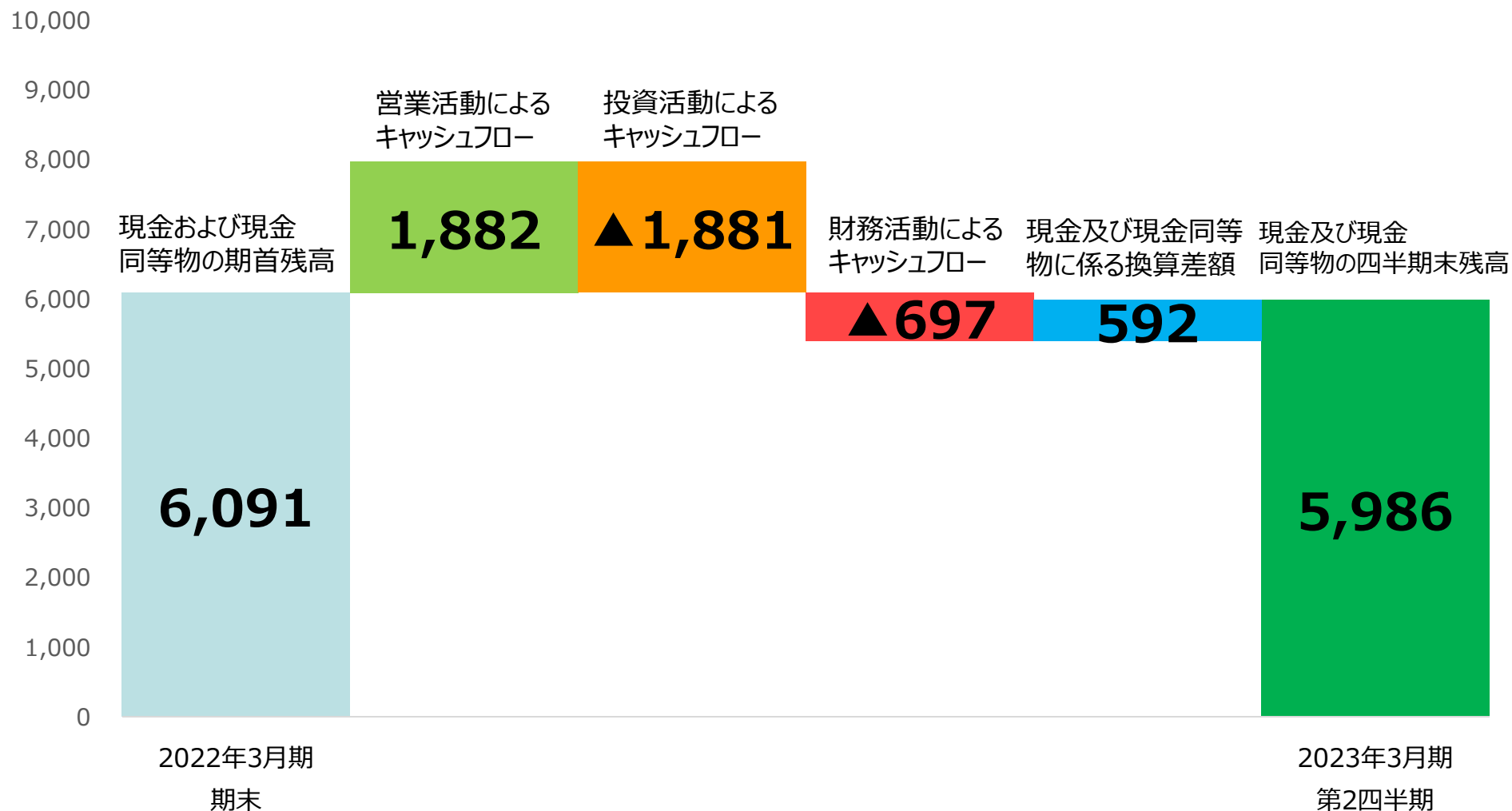
2022年度下期の主な投資

- ・岡山工場関連 (J-MAX)
- ・太陽光パネル (J-MAX)
- ・能力拡大、効率化設備 (広州)
- ・溶接設備導入 (武漢)
- ・新型車種金型 (J-MAX・タイ・広州・武漢)

2022年度は岡山工場新設のほか、省人化・効率化設備投資やサステナビリティ等次期中期を見据えた投資を推進

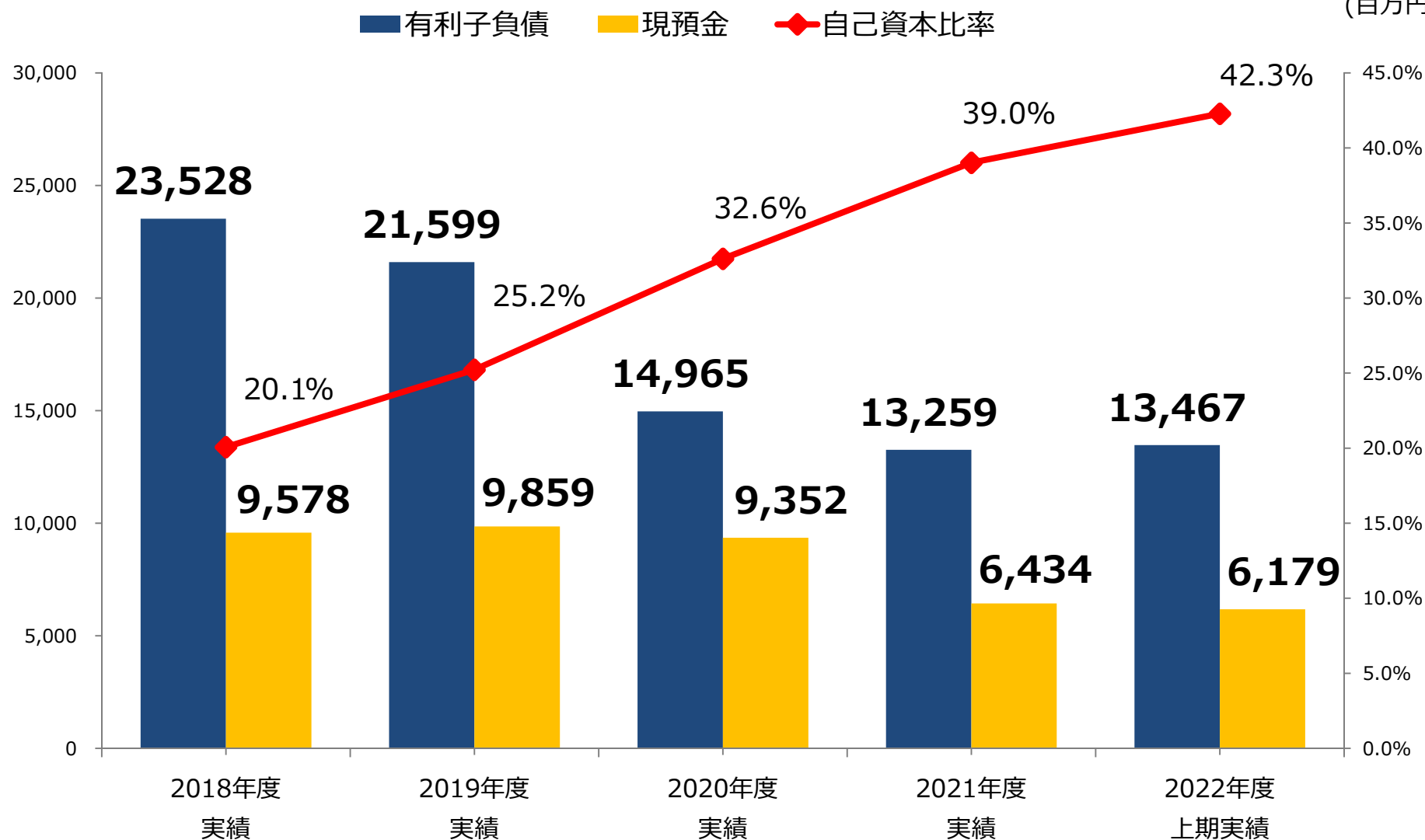
## フリーキャッシュフローは0百万円

(百万円)



期間損益の減少及び生産設備の増加により、フリーキャッシュフローは0百万円

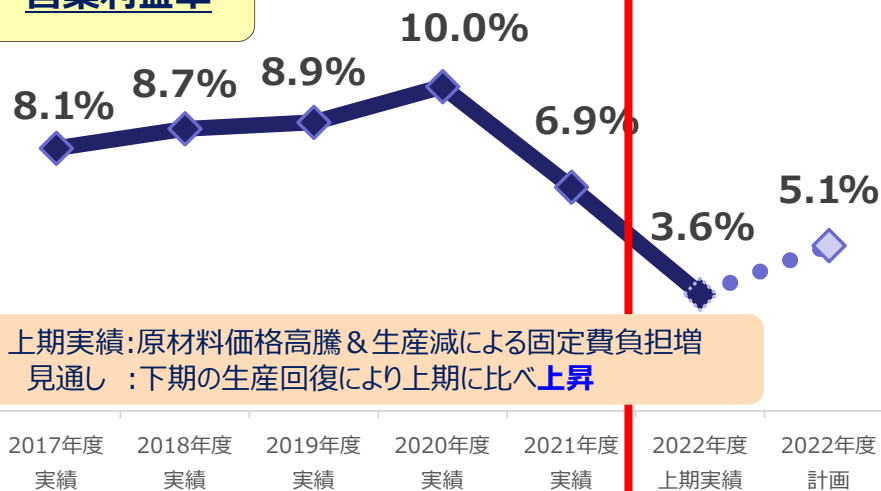
(百万円)



利益創出による自己資本増強と円安効果により、財務体質の改善は順調に進捗

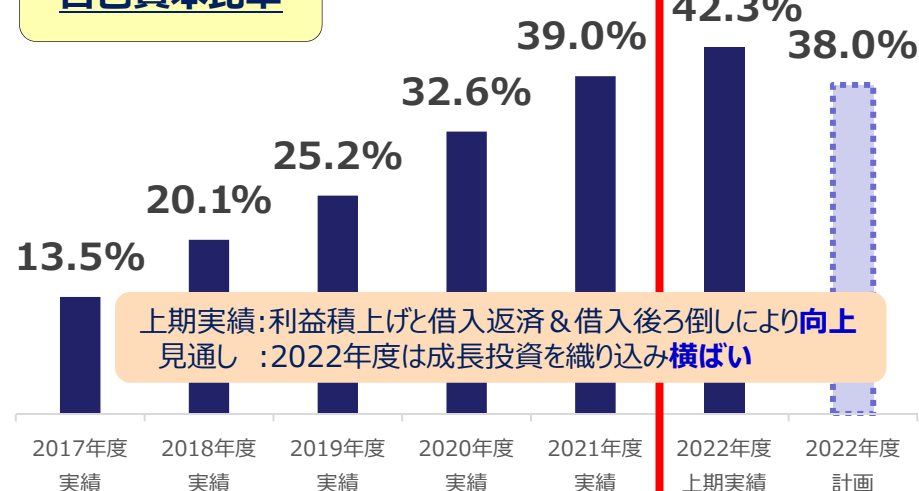
## 営業利益率

目標9%以上



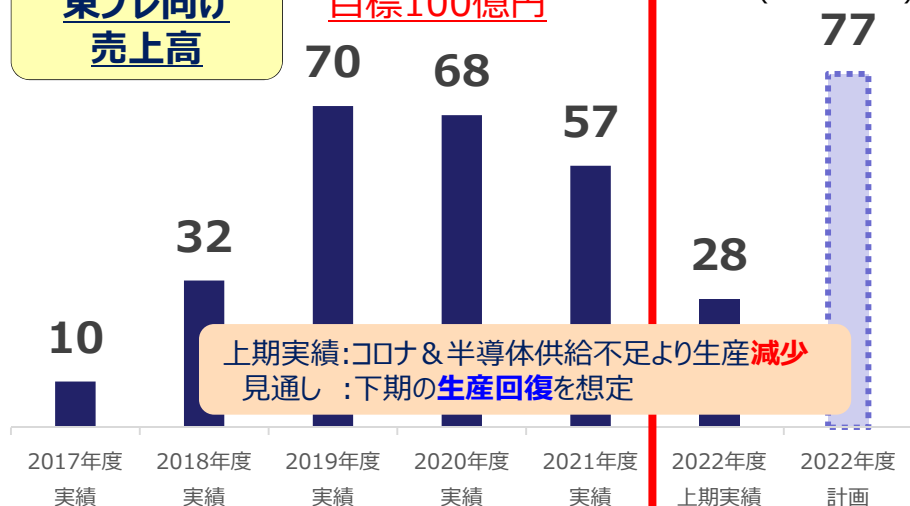
## 自己資本比率

目標40%

東プレ向け  
売上高

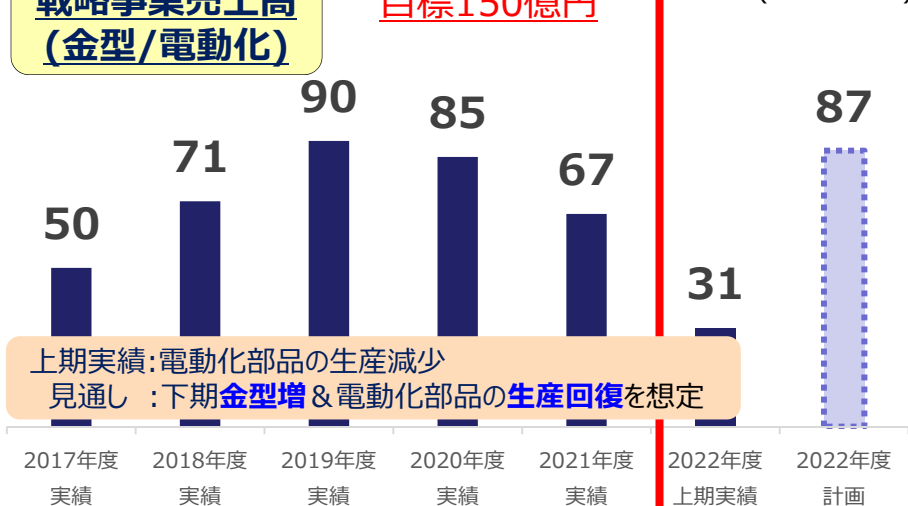
目標100億円

(単位: 億円)

戦略事業売上高  
(金型/電動化)

目標150億円

(単位: 億円)



財務体質の向上については順調に推進するも、  
売上高・営業利益率については、コロナ・半導体供給不足等の外部環境の変化が大きい

## 1-9.通期連結業績予想 (22/11/2修正)

【単位：百万円】

|            | 前期実績   | 前回発表<br>予想 | 第二四半期<br>累計実績 | 進捗率<br>(%) | 今回予想   | 前回発表<br>との差額 | 為替影響  |
|------------|--------|------------|---------------|------------|--------|--------------|-------|
| 売上高        | 45,663 | 53,000     | 23,119        | 44%        | 53,000 | 0            | 3,152 |
| 営業利益       | 2,931  | 3,200      | 828           | 26%        | 2,700  | -500         | 163   |
| 営業利益率 (%)  | 6.4%   | 6.0%       | 3.6%          | —          | 5.1%   | -0.9pt       | —     |
| 経常利益       | 2,679  | 3,000      | 809           | 27%        | 2,600  | -400         | 151   |
| 経常利益率 (%)  | 5.9%   | 5.7%       | 3.5%          | —          | 4.9%   | -0.8pt       | —     |
| 当期純利益      | 1,996  | 1,900      | 274           | 14%        | 1,400  | -500         | 94    |
| 当期純利益率 (%) | 4.4%   | 3.6%       | 1.2%          | —          | 2.6%   | -1.0pt       | —     |
| 一株利益 (円)   | 170.10 | 161.90     | 23.39         | 14%        | 119.29 | -42.61       | —     |

## 2022年度 通期 (円)

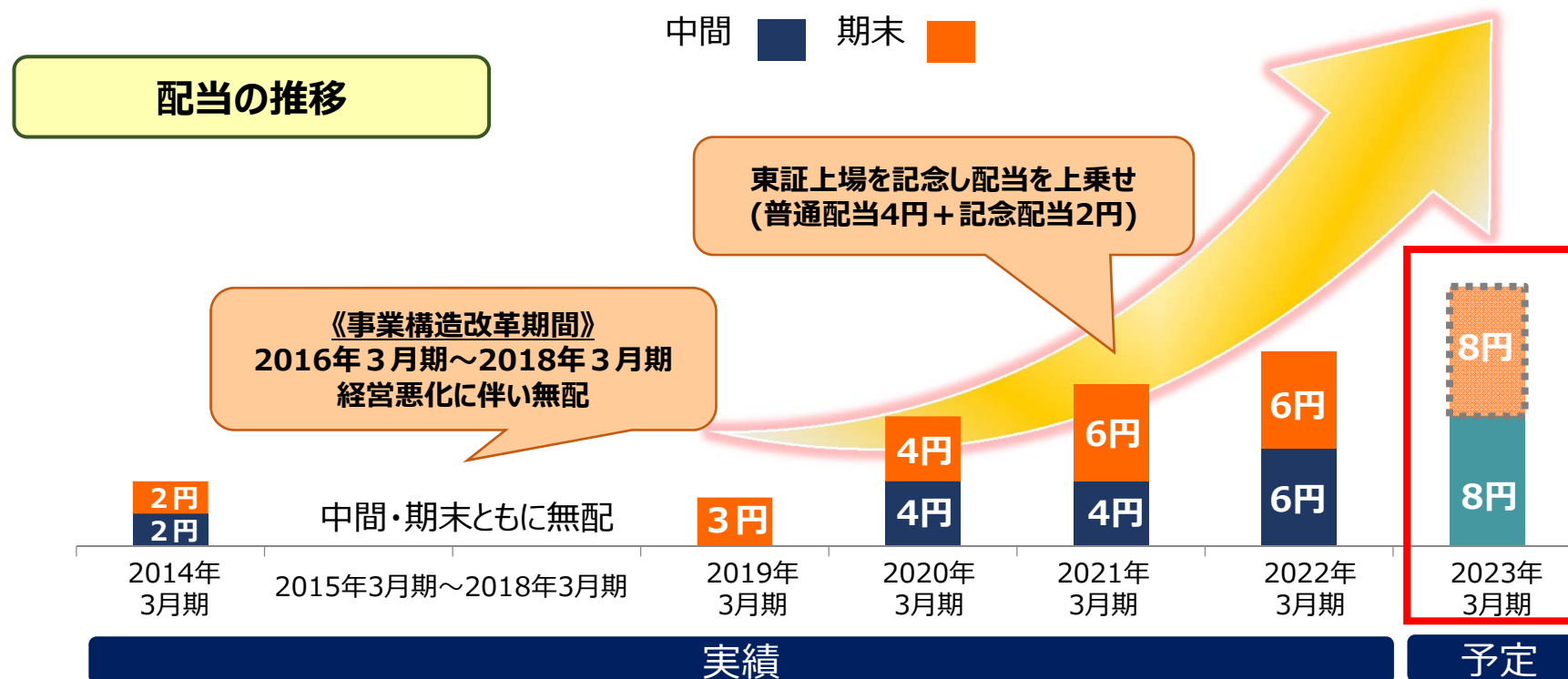
為替レート

タイバーツ：3.68、人民元：19.32、米ドル：133.00

## &lt;配当方針&gt;

現中長期については連結自己資本比率40%を目標値とし、財務体質強化に注力。  
現中長期の配当については、世界的な自動車の生産停止等の甚大な変化がない限り、少しずつでも毎年増配していくことを基本的な考え方としている。

当期配当につきましては、**中間配当が1株につき8円**とし、期末配当が1株につき8円を予定しており、年間配当は1株つき16円を予定しております。



# 本日の報告事項

1、2023年3月期中間決算及び  
2023年3月期業績予想

2、成長へ向けた取り組みについて

3、サステナビリティの取り組みについて

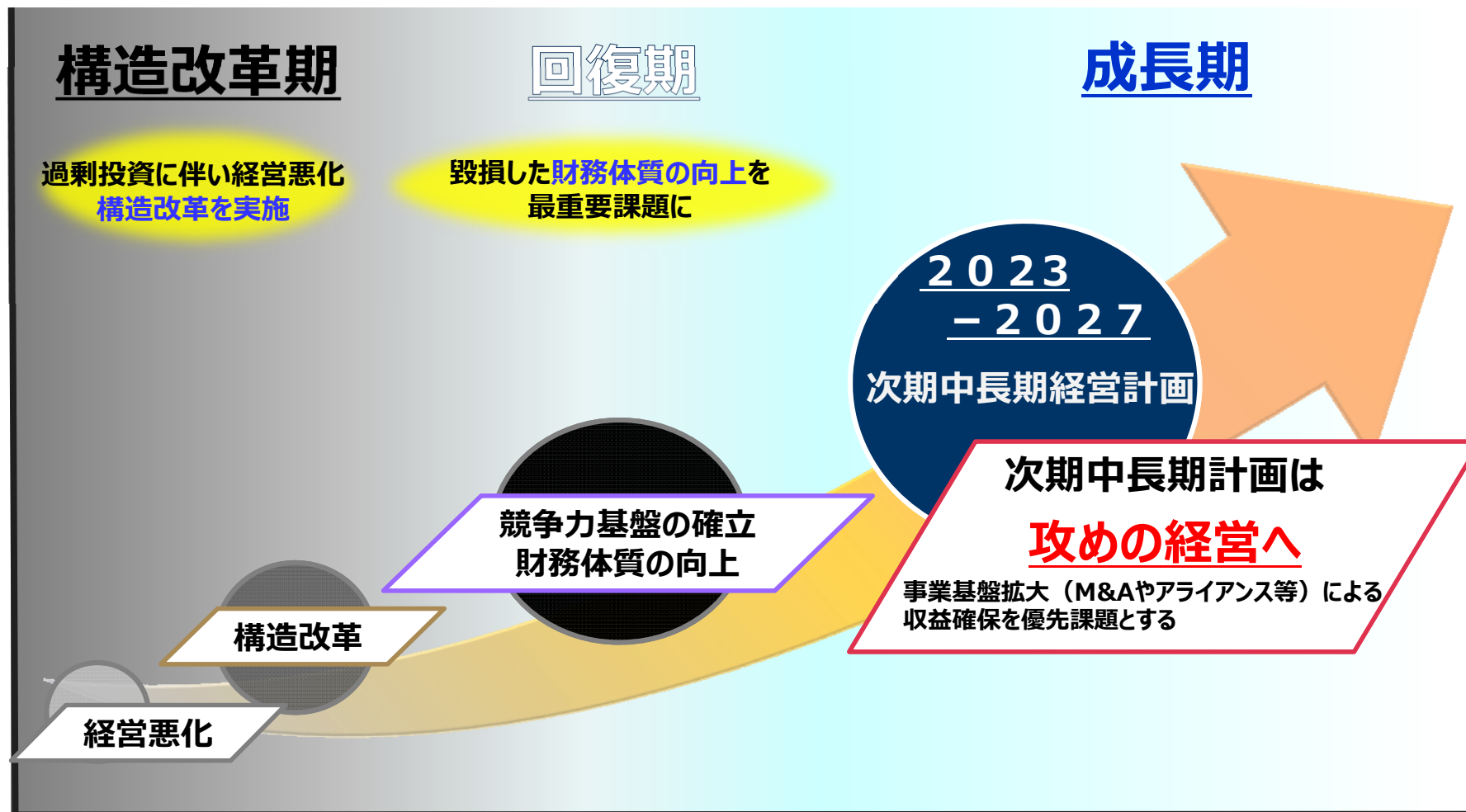
## 2-1.次期中長期に向けて

2018-2022

現中長期経営計画

2023-2027

次期中長期経営計画



次期中長期計画は、事業基盤拡大による収益確保を優先課題に

**武漢丸順：吉利LOTUS向け受注部品 自動カシメラインの導入**

## &lt;受注車種&gt;

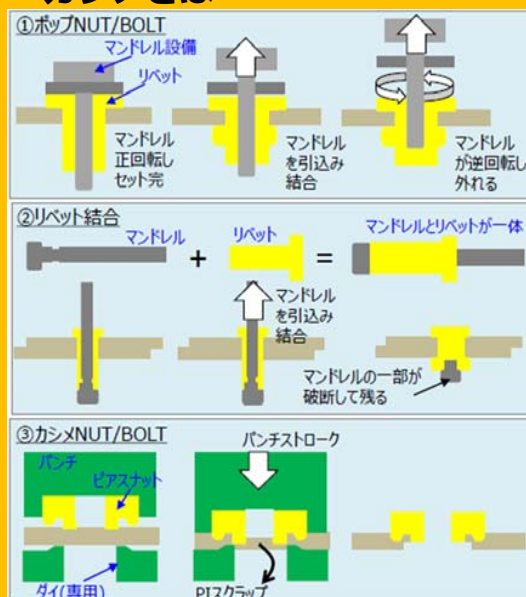
2022年末から武漢で量産開始となるLotus Cars初の電動SUV Etreの量産部品を受注。当該受注は新規受注であり、売上純増の案件。



Etre

## &lt;導入設備&gt;

Lotus Cars Etreの高効率な部品量産に向け自動カシメラインを導入。

**カシメとは・・・**

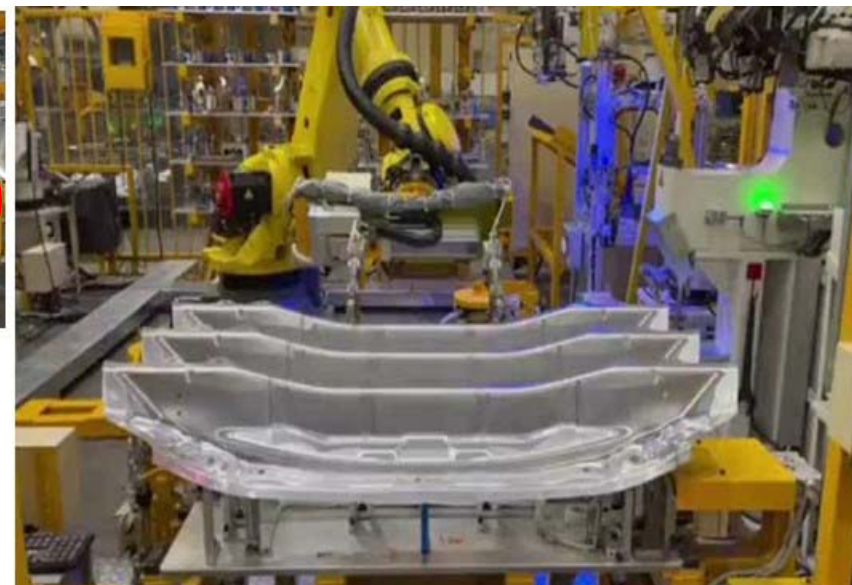
ボルトやナットを溶接せずに  
部材に取り付ける加工方法です

**作業によるカシメの場合**

- ・精度にばらつきが発生
- ・作業者習熟度のばらつき
- ・作業ミス などのリスクがある

**自動化のメリット**

- ・精度は一定で安定
- ・作業者を削減できる
- ・ポカミスは出ない



**カシメ自動ライン導入により、作業効率向上、人為的ミス低減、品質保証能力向上  
要員は10名（手動）→ 2名（自動化）**

**武漢丸順：AGV（自動搬送システム）導入**

## &lt;導入設備&gt;

自動倉庫から出庫される部品を、後工程である溶接工程等へタイムリーに間違いなく供給する為に2022年3月にAGV（自動搬送システム）を導入しました。

**今まで…**

自動倉庫から排出された部品を仕分けをして台車に入れ、後工程まで運搬する作業を全て人作業で行っていました。

**AGV導入後**

自動倉庫から排出された部品を自動で仕分けされ台車へ入ります。ロボットが指定位置まで台車運搬し、空になった台車運びながら帰還します。



✓ 出荷効率アップ

✓ 正確性アップ  
(後工程作業ロス削減)

✓ 要員削減

**構内物流の自動化・無人化を推進し、今後全拠点へ水平展開**

**J-MAX : 精密部品検査用 カメラ測定器導入****<導入設備>**

J-MAXの精密部品の主力製品である、CVTトランスミッション用部品の検査作業について、作業時間の短縮及び省人化の為にカメラによる自動測定器を導入しました。

**変更前**

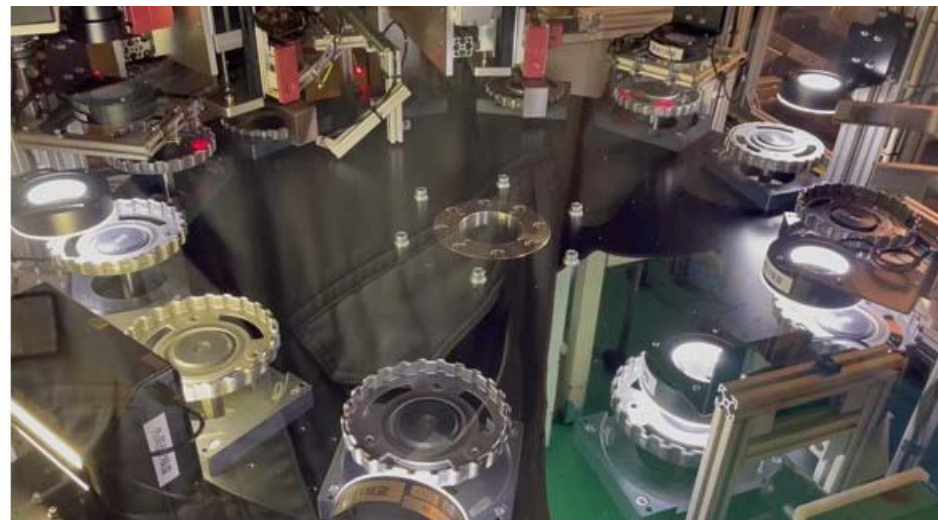
検査作業工程（人に依存した検査）



CVTトランスミッション用精密部品

CVTトランスミッション内部の部品であり、製品精度に加え歯面や穴部分等の外観の要件が非常に厳しく、全数人による調査を実施。

作業者 : 6人  
作業時間 : 20秒  
作業内容 : 全数の確認及び修正

**変更後**

自動測定器

計10台のカメラで項目別に検査を行い、OK品とNG品の仕分けを行う。カメラ測定器導入による検査作業の自動化により作業時間と人員削減を達成。

作業者 : 1人  
作業時間 : 10秒  
作業内容 : NG品の確認及び修正

**検査工程の自動化の取り組みにより、作業時間50%、人員数80%の削減を達成**

**2020年** ・寧徳時代新能源科技股份有限公司(CATL)と  
試作受注から取引を開始



**2021年** ・量産取引を開始  
・計15車種の電動化関連部品を受注

継続的に  
受注獲得



**2022年** ・福建開発・営業センターを設立

CATL本拠地である福建省に  
**開発・営業センターを設立**  
開発スピードへの対応力及び  
顧客との関係性を強化し  
受注獲得に努める。



福建開発・営業センター(8F)

車載用電池市場において  
世界トップシェアを誇る

### CATL 受注状況 (広州丸順)

寧徳時代新能源科技股份有限公司(CATL)より継続  
的に受注を獲得。

2022年7月には**福建開発・  
営業センターを設立**。

**CATL専用新プレスラインの  
検討開始**

**CATLより継続的に受注を獲得中**  
今後も更なる電動化事業拡大に向け、積極的な受注活動に努める

当社はスーパーハイテン加工技術を磨き、技術の進化を続けることでスーパーハイテン材をはじめとするボディ部品事業を主力事業として成長して参りました。当社の高い技術力に加え、営業、IR等による積極的なPRにより主要客先であるホンダ以外にもスーパーハイテン部品の受注を順調に拡大しております。

## HONDA



N-BOX



FREED



VEZEL

## NISSAN



SAKURA



ROOX



DAYZ

## TOYOTA



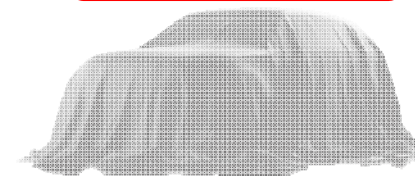
LEXUS NX



COROLLA CROSS



bZ4X



次期ミニバン

受注確定

主要客先であるホンダ以外にもスーパーハイテン部品の受注を順調に拡大

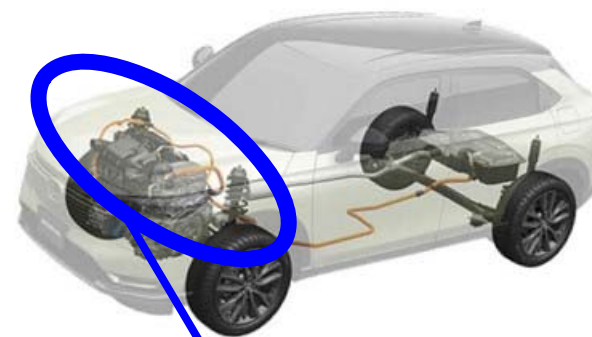
### ◆精密電動化部品の技術開発の推進

電動化部品において、モーター関連部品の研究開発を進めており、この度マグネットプレート(アルミ)の**試作品を受注し、納入が完了いたしました。**

当該部品は、走行時に高速回転することから**あらゆる走行条件下での品質維持が必要とされる重要機能部品。**

電動化需要の拡大に伴い、**生産台数の拡大が見込まれる部品**であり、量産部品の受注獲得に向け、引き続き技術開発に努めてまいります。

多岐にわたる技術要素を必要とする重要機能部品



\* 類似品



\*出典元：マークラインズ

新規部品の受注に向け、技術開発を推進中  
モーター関連部品受注拡大への足掛かり構築を目指す

## J-MAX : 岡山工場関連の進捗状況

|       | 2022年 |    |             |             |                     |    |     |               |     |
|-------|-------|----|-------------|-------------|---------------------|----|-----|---------------|-----|
|       | 4月    | 5月 | 6月          | 7月          | 8月                  | 9月 | 10月 | 11月           | 12月 |
| 手続き関連 |       |    |             | ▽ 企業立地調印式実施 |                     |    |     |               |     |
|       |       |    |             |             | ▽ 住民説明会実施           |    |     |               |     |
| 土地関連  |       |    | ▽ ボーリング調査完了 |             | ▽ 不動産売買契約締結         |    |     |               |     |
| 建屋関連  |       |    | 図面の作成       |             |                     |    |     |               |     |
| 設備関連  |       |    |             |             | ▽ 3000tトランスファープレス発注 |    |     |               |     |
|       |       |    |             |             | ▽ 800t順送プレス発注       |    |     |               |     |
| 採用関連  |       |    |             |             |                     |    |     | ▽ 内定式         |     |
|       |       |    |             |             |                     |    |     | ▽ あさくち就職フェア参加 |     |



同サイズ(3000t)プレス



企業立地協定書調印式  
株式会社J-MAX・浅井



J-MAX  
You are the future of the future

企業立地協定書調印式

株式会社J-MAX・浅井



同サイズ(3000t)プレス



岡山工場関連は各領域とも順調に推進中  
2024年5月生産開始に向け準備を進める

# 本日の報告事項

1、2023年3月期中間決算及び  
2023年3月期業績予想

2、成長へ向けた取り組みについて

3、サステナビリティの取り組みについて

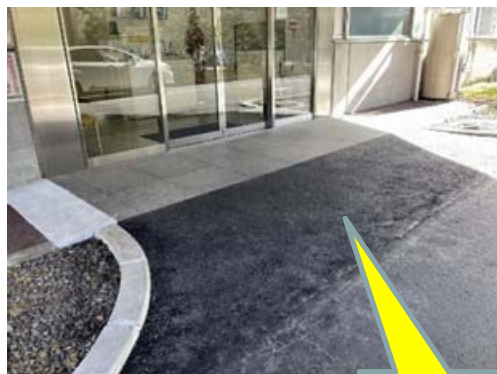
| ESG | 重要課題（マテリアリティ）   | K P I                                                                                                    | 2022年度の主な取り組み                                                                                                                              |
|-----|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| E   | ①CO2排出量の削減      | ● CO2排出量削減率                                                                                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ マテリアリティ・KPIを全社の事業計画に反映</li> <li>■ 過去・現在の環境データ把握・分析</li> <li>■ KPI算定基準策定完了。次期中期ロードマップ作成</li> </ul> |
| E   | ②廃棄物の削減&資源の有効活用 | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 廃棄物排出量の削減率</li> <li>● 仕損費比率の削減率</li> </ul>                      |                                                                                                                                            |
| S   | ③当社技術を活用した技術革新  | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 電動化関係部品売上拡大</li> <li>● スーパーハイテン用金型売上拡大</li> </ul>               | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ EVバッテリー関連部品の開発</li> <li>■ 新接合・異材接合等の軽量化技術の開発</li> </ul>                                           |
| S   | ④ダイバーシティ        | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 女性管理職者数</li> <li>● 外国人社員比率</li> <li>● 障がい者雇用率</li> </ul>        | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 女性経営者による基調講演の実施</li> <li>■ <u>本社施設のバリアフリー化の完了</u></li> <li>■ <u>特別支援学校より現場実習の受入れ実施</u></li> </ul> |
| S   | ⑤人材教育・育成        | ● プロフェッショナル人材管理職（専門職昇格者）                                                                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 現法経営者等の育成プログラムの推進</li> <li>■ 階層別研修、昇格者研修の実施</li> </ul>                                            |
| S   | ⑥働き方改革          | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 過重労働者率</li> <li>● ワークライフバランス推進</li> <li>● エクセレント企業認証</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 内部統制システムの運用状況報告</li> <li>■ ワークライフバランスエクセレント企業の調査完了</li> </ul>                                     |
| S   | ⑦労働安全衛生         | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 健康経営優良法人認定</li> <li>● 休業災害件数</li> </ul>                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 健康経営認定調査票の提出完了</li> <li>■ 高血圧予防セミナーの実施</li> </ul>                                                 |
| S   | ⑧地域経済への貢献       | ● 地域活性化事業の展開                                                                                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 循環型農業の実証実験推進</li> <li>■ 学校跡地利用の検討</li> </ul>                                                      |
| G   | ⑨コーポレートガバナンスの強化 | ● コーポレートガバナンス・コード遵守率                                                                                     | ■ コーポレートガバナンス・コードの高度化に向けて対象項目の抽出、対策検討                                                                                                      |

サステナビリティ重要課題に対する全社の取り組みを推進中

## 本社・上石津工場 玄関および2階のバリアフリー化

障がい者や高齢者をはじめとする体の不自由な方々の移動や施設の利用上の利便性及び安全性向上の促進に加え、今後の障がい者等の雇用の更なる拡大を目的としてバリアフリー化を推進。

《本社玄関前》



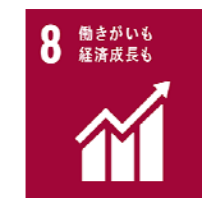
《工場玄関内》

段差対応  
スロープ設置

《本社玄関内》



エレベータ設置

段差対応  
スロープ設置

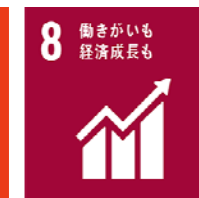
《本社2階トイレ》

バリアフリー  
トイレ設置

バリアフリー化により、障がい者雇用の環境整備、移動や施設の利便性向上

**特別支援学校生の職場実習の受入れ**

当社と学校の連携構築を目的として、10月に西濃高等特別支援学校の生徒を受入れ、当社 浅西工場で現場実習（ロボット溶接作業、検査作業）を実施いたしました。現場実習の受入れを通し、障がい者の理解を深めると共に社内の雇用環境の整備に繋がっています。

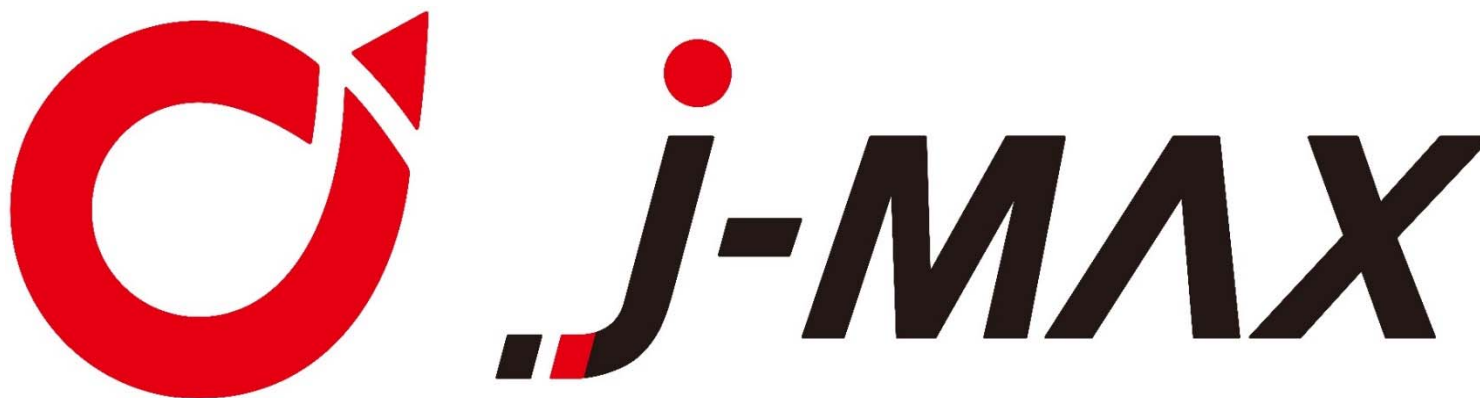


《現場実習風景》



**特別支援学校生の受入により、社内環境を整え、障がい者雇用を促進**

ご清聴ありがとうございました



当社ウェブサイトにてIR情報をご提供させていただいております



<https://www.jp-jmax.co.jp>

この資料は、株式会社J-MAX（以下、当社）の現状をご理解いただくことを目的として、当社が作成したものです。当資料に記載の内容は、一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成したものであり、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更する可能性があります。また、将来に関する記述については、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの内容とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。